



**インクルーシブ教育科目**  
**「インクルーシブ教育基礎論」**

---

**兵庫教育大学大学院学校教育研究科**

**岡村 章司 小川 修史**

# 授業デザインの背景

# 育成したい資質・能力(目標)

インクルーシブ教育  
の理解とその展望

- ・ 共生社会とインクルーシブ教育システムの意義
- ・ 特別支援教育
- ・ ICF（障害の社会モデル）
- ・ 多様な学びの場
- ・ 地域におけるインクルーシブ教育の展開

インクルーシブ教育  
推進に必要な知識や  
支援力

- ・ ニーズのある子どもの実態を把握する力
- ・ アセスメントに基づき個別の教育支援計画・個別の指導計画を立案する力
- ・ 支援を実施し評価する力
- ・ 特別支援教育の視点を踏まえた学級経営・授業づくりができる力

関係者と協働する力

- ・ 多様な子ども（不登校、外国人、貧困層など）を理解する力
- ・ 教師間でのコミュニケーション力
- ・ 関係者間でのコミュニケーション力

# 多様性に応え得る態度や価値観



自らの捉えの揺さぶり

考える魅力への気づき

「校長先生」とは？  
「小学生」とは？  
「教師」とは？  
「ニーズのある児童生徒」とは？

障害者      性的マイノリティ  
多文化      企業      他領域  
教科教育・生徒指導      保護者

学級づくり    学校づくり  
個別の指導・支援  
支援会議

無自覚な自らの捉えや  
言動を振り返る



多様性に触れる

インクルーシブ教育基礎論



実践を理解する

インクルーシブ教育実践論

# 授業の概要

# インクルーシブ教育基礎論

## Foundation of Inclusive Education

到達目標：インクルージョン、インクルーシブ教育の理念および児童生徒の多様性を理解する

|     |    |                                              |
|-----|----|----------------------------------------------|
| 自身  | 1  | オリエンテーション                                    |
|     | 2  | 無意識的な偏見や差別を自覚する（UNIVA/株式会社LITALICO）          |
|     | 3  | ソーシャルインクルージョンとインクルーシブ教育                      |
|     | 4  | 社会的マイノリティの立場から考える（1）：障害                      |
|     | 5  | 社会的マイノリティの立場から考える（2）：性的マイノリティ                |
|     | 6  | 社会的マイノリティの立場から考える（3）：多文化共生                   |
|     | 7  | インクルーシブ・デザインについて考える（1）：合理的配慮とユニバーサル・デザイン     |
|     | 8  | インクルーシブ・デザインについて考える（2）：QOLの向上                |
| 専門家 | 9  | インクルーシブ教育を教師の視点から考える（1）：教科教育との関連             |
|     | 10 | インクルーシブ教育を教師の視点から考える（2）：生徒指導との関連             |
|     | 11 | インクルーシブ教育を教師の視点から考える（3）：外国人児童生徒への支援との関連      |
| 関係者 | 12 | 関係機関等との連携を考える（1）：保護者                         |
|     | 13 | 関係機関等との連携を考える（2）：関係機関（労働）                    |
|     | 14 | 関係機関等との連携を考える（3）：民間企業（株式会社LITALICO、株式会社錦城護謨） |
| 自身  | 15 | インクルージョンに関する意義を整理する：無意識的な偏見や差別を自覚する          |

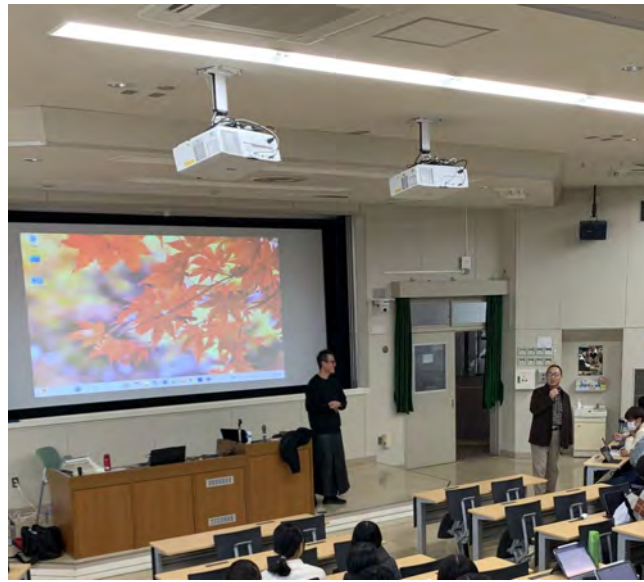
# 授業の実際

## 授業の流れ

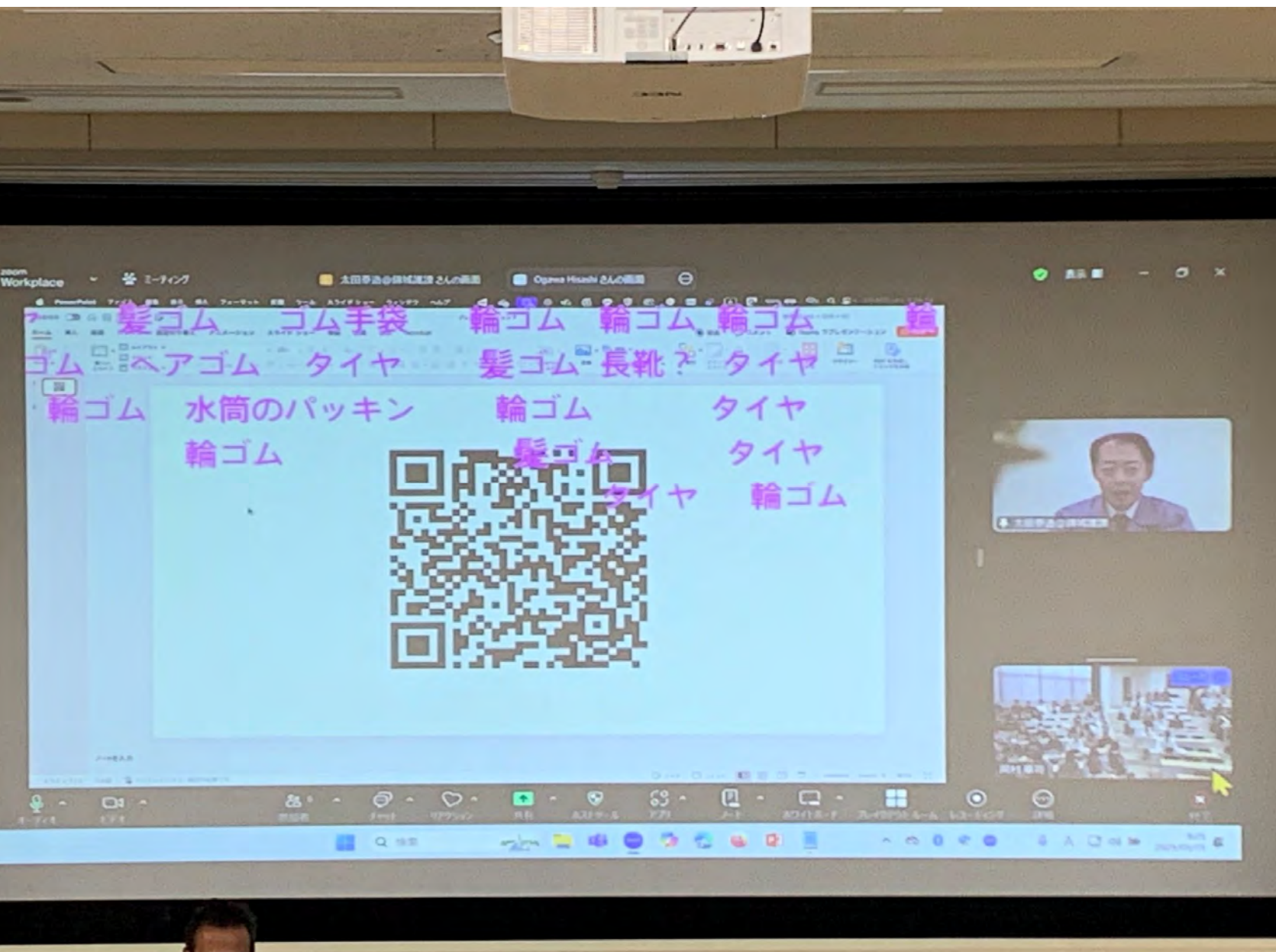
ミニレクチャー

パネル  
ディスカッション

各自の振り返り







# アンケートを用いた評価

- ・ 講義前と講義後に4件法並びに自由記述
  - 障害の定義, 社会的マイノリティの実状, 社会的マイノリティに対する支援, インクルーシブ教育と教科教育, 連携協働の重要性
- ・ 講義前に「講義で学んでみたいこと」, 講義後に「講義で学んで気づいたこと」「講義形式に対する感想」を自由記述
- ・ 自由記述はテキストマイニングによりPre-Postを比較分析
  - Pre-Postの特徴単語を品詞別に抽出し, 特徴単語を含む文を分析

# 講義を受けた影響の分析

# 1.障害の定義

先天性・後天性を含め、健常者と比較した際に体の機能の一部に異常がみられること。



障害とは、他の人と少し違う部分を持っていて、日常生活においてなにかしらの障壁を感じている人のこと。障害を持っている人は不幸という考え方は偏見であり、それぞれにそれぞれの幸せがあることに気づかなければならない。

## 障害の個人モデルから社会モデルへの意識変容

## 2.社会的マイノリティの実状

性的マイノリティは近年話題になって広く社会に受け入れられるようになってきていると思う。LGBTQだけでなくもっと多いことは知っているが具体的には知らない。



日本語を話せる子供が親の通訳のようなことをしなくてはならない言語的なヤングケアラーのような状況になっていることもある。母語を拒絶する子もいる。感覚過敏でずっとマスクをつけていなければ生活できなかったり、一定のものしか食べれない人だったりがいる。

## 社会的マイノリティの多様さの認識

### 3.社会的マイノリティに対する支援

バリアフリー、ユニバーサルデザインなど。



（前略）社会的マイノリティの人たちが悪いのではなく、対応できていない社会自体に問題がある。少数派の人たちも多数派の人たちも、我慢せずに**両方が心地よく**過ごせる社会になっていくべき。外国の人たちも、自分たちの文化を大切にしながら環境に馴染むことができる社会をつくるべき。

**「共生社会」に対する意識の芽生え**

## 4.教科教育との関連

多様な人の考えや意見を用いて、より授業を意味のあるものにする。



様々な特性を持つ**社会**の中で生きるために、教科教育において、まずはその教科と関連づけて考え、関心を持つことから初め、学び、社会のこと、人のことを知っていく。自分の中にあるパーソナリティを大切にした上で他者との**関わり**、（中略）、そんな考えもあるのかと他者の考えを**尊重**することの大切さなどを教科教育を通して学んでいくことがインクルーシブ教育にも**繋がる**のではないかと考える。

**多様性を前提とした教科教育との関連に対する気づき**

## 5.連携・協働する大切さ

障害のある子どもの特性を共有して，学習環境を整えるために大切。



家と**学校**で見せる子どもの姿は違い、**保護者**から見て先生は「**味方**」であり「**協力者**」であるため、お互い最高の情報源である。文字のフォントを変えるだけで読みやすさが変わったり、カームダウンスペースを作ることによって落ち着いたりできるため、何に困っているのか共有することが**大切**。

**情報を共有し，協働することの大切さに対する気づき**

## 5.連携・協働する大切さ

様々な機関と連携・協働することで、個別にあった学びを考えることができる。



民間企業と学校が連携することで、様々な制約から学校だけでは対応できず、停滞してしまっていたことも、民間企業が柔軟に対応して行動に繋げ、社会を少しずつ進化させることができる。そして、進化した社会を子どもたちに教育として教えるのが学校であるので、連携・協働は大切である。

**組織の強みを活かした連携の可能性に対する気づき**

# 講義形式に対する感想

小川先生・岡村先生・ゲストの方でおしゃべりをしていく中で**学びを引き出して**いっているというのが顕著に表れていて、聞いている側もすごく講義に対して**前のめり**になることができていました。

トークの中で繰り広げられる面白い会話や話題の飛躍、3者からの多様な側面からの意見の出し合いなどと個人的にはすごく大好きな雰囲気です。深く学ぶことができていました。

# 今後の課題

後半の講義は全てではないですが、**ゲストの先生がずっと話していてトークが繰り広げられておらず**、これはインクルーシブ基礎論の授業なのか？僕たちは何の講義を受けているんだろ？と疑問を抱くこともしばしばありました。この授業の魅力はやはり先生方とゲストの方による何気ない会話から広がっていく学びを生徒たちが多種多様な形でそれぞれのインクルーシブとして受け取っていくということだと思います。**ゲストの方の主張が強すぎると単なる別の講義になってしまっていて少し悲しかったです。**

- ・ 直接対話する時間
  - 授業に対する意欲とも捉えられるため、次年度以降は質疑応答の時間を儲けることを検討
- ・ 多様な学生との交流
  - 仲の良い学生が集まることで、同じ属性になってしまうため、席をランダムにするなど工夫が必要。
  - 席をランダムにすることによるトラブルが考えられるため、十分な検討が必要
- ・ 振り返りの時間の不足
  - 振り返りの時間を多く取れなかったため、次年度は振り返りの時間を設けることも検討
- ・ 資料の提供
  - 資料をダウンロードできる環境の準備
- ・ 授業回ごとのバラツキ
  - 話題提供の情報量を少なくする様にスピーカーに依頼

# インクルーシブ教育実践論

## *Practical studies in Inclusive Education*

到達目標：インクルーシブ教育を実践する素養を高める

- 1 演習：インクルージョンの視点から学校をつくろう！
- 2 特別な教育的ニーズのある児童生徒等を含めた学級経営のあり方
- 3 理想の学級を作ってみよう 1：学級経営について考える
- 4 障害のある児童生徒等を含めた、教科等の諸領域との関連性を踏まえた授業のあり方
- 5 理想の学級を作ってみよう 2：授業について考える
- 6 理想の学級や授業を共有しよう
- 7 学級経営や授業づくり、学校づくりの実際
- 8 多様な児童生徒からなる学校・学級とは—第1～7回のふり返り—
- 9 個別の指導計画・個別の教育支援計画の概要（指導計画作成演習）
- 10 個別の指導計画に基づく指導の実際
- 11 アシスティブ・テクノロジーを用いた個別の指導
- 12 支援会議の概要
- 13 模擬支援会議の演習
- 14 模擬支援会議の振り返り
- 15 インクルーシブ教育を展開するために